

## C-37 Pre Cure による P.P. 加工布の縫製に適合する縫糸の性質について

広島大教育 大池 久子  
○坂田 優子

1. Pre Cure によるP.P 加工製品は、その開発当初から縫製上に問題のあることが指摘され、多くの研究者によりその解明のためへの努力がされてきた。しかし、現時点においても満足すべき状態に達していない。本研究は、縫糸の物性を調べ、この種加工布の縫製をするために要求される縫糸の性質的条件を求め、問題解明の端緒とした。

2. 縫糸の素材・太さ・構造を異にする26種のもをを対象とし、40'S の E/C 混の P.P 加工布帛を試布として、縫糸の適合性を知るために、縫糸の糸斑・動まさつ係数・強伸度・ヤング率などを調べ、工業用本縫ミシンにより縫製し、所定条件によりプレッシュキュア、洗たくなどを行ない、縫目の変化により適否の判定をした。

3. その結果、Pre Cure による P.P 加工布は、縫製の段階においては柔軟性、ぬめり感があるため、縫糸のテキスチュアの影響が大きい。したがって、(1)糸斑のU%の大なる糸は、織糸の挫屈を強め、縫目のつれの大きな要因となっている。(2)糸斑のU%の大小は、縫糸の太さとは必ずしも一致せず、加工による影響がある。(3)縫糸の動まさつ係数・ヤング率の小なる糸は好ましい。(4)

縫糸の伸度の大きなものは概ね好ましいが、加工による動まさつ係数の増大を招いているものは縫目の収縮度は大となる。